

建具職人

国枝

一雄さん(80)

大垣市禾森町

チャレンジ

世代

60年以上にわたり建具一筋で、社内最年長となつた今も現役で工場に立つ。20種類以上の材木の特性を見極め、建具の具材を切り出す「木取り」を担当し、「建具のことは全て把握している」と後輩社員らからの信頼も厚い。

建具、インテリア総合産業のトヨタ(同市郭町)の建具・家具部門を担う

熟練の技「生涯現役」



「元気でいられる限り工場に立ちたい」と語る国枝一雄さん
＝大垣市南若森町、大垣建具

グループ会社「大垣建具」

(同市南若森町)で、工場長を務めている。

物作りが好きだったこともあり、17歳のときから瑞穂市の建具屋で修業を始めた。戦後次々と民家が建設される時期で、地域の需要に応えながら腕を磨いた。1961年、同工場が創業する時に誘いを受け、トタン張りの工場で社長を含めて3人で事業を始めた。

60歳で定年を迎えたが雇用を延長し、現在は週5～6日、午前中のみ勤務している。木取りの工程は、建具の出来を左右する最も重要な作業。作業服で機械の前に立つと、てきばきと慣れた手つきで作業をこなす。若い職人の育成にも携わる。職人として熟練しても、「完成した建具を見て『こうすれば良かった』と思うこともある」と言

い、常に勉強の姿勢を忘れない。

「国枝さんのように定年後も続けたい」という後輩も多い」とトヨタの豊田繁雄社長。「100歳まで現役で頑張ってもらいたい」とエールを送る。「建具は天職だと思える。健康でいられる限り工場に立ちたい」と、これからも地域の住宅に貢献していくつもりだ。

(有我友香理)

いきいき

シニア